

製品名: A1BG ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab03345**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 54 kDa; Observed MW: 28 kDa

抗原情報

遺伝子名	A1BG
別名	A1BG; Alpha-1B-glycoprotein; Alpha-1-B glycoprotein
遺伝子 ID	1
SwissProt ID	P04217
免疫原	A1BG 由来の合成ペプチド。AA 範囲: 100-180

背景

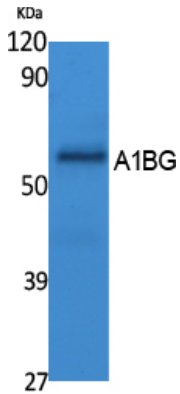
A1BG は機能不明の血漿糖タンパク質です。免疫グロブリンスーパー遺伝子ファミリーに属するタンパク質の可変領域と配列相同性を示します。A1BG は最近、システインリッチ分泌タンパク質 3 (CRISP 3) と高い親和性で結合することが示され、循環血中の CRISP

3の潜在的な毒性作用からA1BGを保護する可能性が示唆されています。

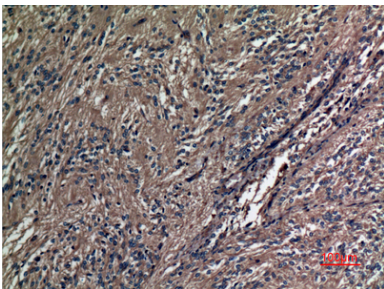
研究分野

細胞生物学

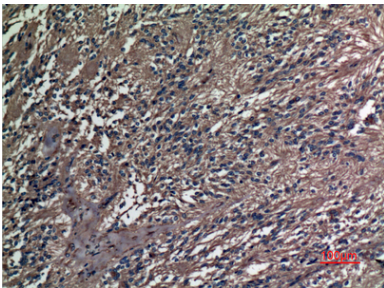
画像データ



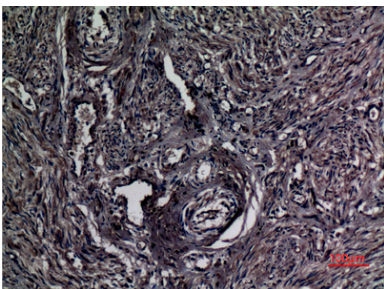
A1BG抗体を使用したK562溶解物中のA1BGのウエスタンブロット分析。



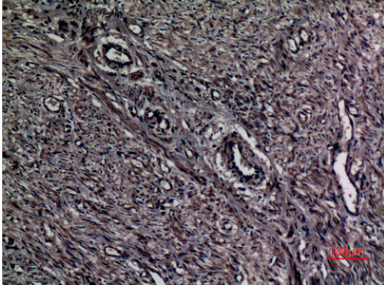
A1BG抗体を使用したパラフィン包埋ヒト卵巣の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



A1BG抗体を用いたパラフィン包埋ヒト卵巣の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。



A1BG抗体を使用したパラフィン包埋ヒト子宮の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



A1BG 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト子宮の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。